

令和6年10月3日

東京都千代田区四番町5番地3

科学技術振興機構 (JST)

Tel : 03-5214-8404 (広報課)

URL <https://www.jst.go.jp>

先端国際共同研究推進事業 (ASPIRE) 日本-米国NSF Global Centers共同研究 バイオエコノミー領域 令和6年度新規課題の決定について

JST (理事長 橋本 和仁) は、先端国際共同研究推進事業 (ASPIRE)^{注1)} で実施する米国国立科学財団 (NSF)^{注2)} Global Centersとの共同公募「バイオエコノミー領域」において、新規課題の採択を決定しました (別紙1)。

ASPIREは、日本の科学技術力の維持・向上を図るため、政策上重要な科学技術分野において、国際共同研究を通じて日本と欧米など科学技術先進国・地域のトップ研究者同士を結び付け、日本の研究コミュニティにおいて国際頭脳循環を加速することを目指すものです。

本公募は、NSFが米国を含む対象国^{※3)} 間での地球規模課題の解決に向けた国際共同研究を支援するGlobal Centers (GC) の取り組みに、JSTが参加する形で実施しました。研究実施期間は、5年間 (60ヵ月) を予定しています。

GCでは、2国間または多国間の最先端かつ社会実装まで視野に入れた出口指向の共同研究を募集し、各国の資金配分機関 (FA: Funding Agency) が当該国の研究者を支援します。

注1) 先端国際共同研究推進事業 (ASPIRE)

ASPIRE: Adopting Sustainable Partnerships for Innovative Research Ecosystem

ホームページURL: <https://www.jst.go.jp/aspire/>

注2) 米国国立科学財団 (NSF)

NSF: National Science Foundation

ホームページURL: <https://www.nsf.gov/>

注3) 対象国: 日本、米国、カナダ、フィンランド、韓国、英国

<添付資料>

別紙1: 新規課題一覧

別紙2: 評価委員 (JST側)

参考: 採択課題評価基準 (JST側)

<お問い合わせ先>

科学技術振興機構 国際部

〒102-0076 東京都千代田区五番町7 K's五番町

小林 治 (コバヤシ オサム)

Tel: 03-6261-1994

E-mail: [aspire\[at\]jst.go.jp](mailto:aspire@jst.go.jp)

<科学を支え、未来へつなぐ>

例えば、世界的な気候変動、エネルギーや資源、感染症や食料の問題。私たちの行く手にはあまたの困難が立ちはだかり、乗り越えるための解が求められています。JSTは、これらの困難に「科学技術」で挑みます。新たな価値を生み出すための基礎研究やスタートアップの支援、研究戦略の立案、研究の基盤となる人材の育成や情報の発信、国際卓越研究大学を支援する大学ファンドの運用など。JSTは荒波を渡る船の羅針盤となって進むべき道を示し、多角的に科学技術を支えながら、安全で豊かな暮らしを未来へとつなぎます。

JSTは、科学技術・イノベーション政策推進の中核的な役割を担う国立研究開発法人です。

新規課題一覧

課題名		日本側研究機関
		相手国
1	バイオ製造とグローバルバイオエコノミー 実現に向けた信頼性および拡張性の高い バイオファウンドリ国際共同研究拠点	神戸大学 大学院科学技術イノベーション研究科
		米国、英国、フィンランド、韓国
2	植物のレジリエンスを強化する国際研究 センター	理化学研究所 環境資源科学研究センター
		米国、英国、カナダ、韓国
3	社会的受容性と実用性を備えた植物の開発 を目指すアライアンス	山口大学 大学院創成科学研究科
		米国、英国、フィンランド

評価委員（JST側）

運営統括

氏名	所属・役職
宮野 健次郎	物質・材料研究機構 名誉フェロー

研究主幹、アドバイザー

氏名	所属・役職	備考
清水 浩	大阪大学 大学院情報科学研究科 代謝情報工学研究室 教授	研究主幹
跡見 晴幸	京都大学 工学研究科 合成・生物化学専攻 生物化学 講座 教授	アドバイザー
萩野 千秋	神戸大学 大学院工学研究科 応用化学専攻 教授	アドバイザー
白井 智量	理化学研究所 環境資源科学研究センター 上級研究員	アドバイザー
玉木 秀幸	産業技術総合研究所 生物プロセス研究部門 生物資源 情報基盤研究グループ 副研究部門長／研究グループ長	アドバイザー
本多 裕之	名古屋大学 大学院工学研究科 生命分子工学専攻 生命システム工学 教授	アドバイザー

※アドバイザーは五十音順

採択課題評価基準（JST側）

JST側では、以下の観点にてASPIREで支援する課題として適切か審査を行いました。

1. 研究体制の妥当性・多様性	<ul style="list-style-type: none"> ・目的の達成や成果の創出を見据えた、専門性のバランスの取れたチーム構成になっているか
2. 日本側研究チームおよび相手国側チームの研究代表者の適格性	<ul style="list-style-type: none"> ・研究代表者は十分なマネジメント能力を有しているか ・研究代表者は国際的なトップ研究コミュニティの中に入り込むことが期待されるほどの十分な研究実績を有しているか、またはすでに入り込んでおり、十分な研究実績を有しているか ・研究代表者は国際頭脳循環などを通して、今まで若手研究者などの人材育成を実施した十分な実績があるか ・本公募の趣旨に沿った研究活動を遂行する上で、十分な研究資源（研究資金、人的・物的資源など）を備えているか
3. 研究内容および計画の妥当性と質の高さ	<ul style="list-style-type: none"> ・研究提案内容が該研究分野・領域において高い水準のものであるか ・国際的に高い評価を得る研究成果の創出が期待できるか ・相手国側研究チームと国際共同研究を実施することによる相乗効果が期待できるか
4. 国際ネットワーク構築・拡大のための目標設定および計画の具体性・妥当性	<ul style="list-style-type: none"> ・目標とする国際的なトップ研究コミュニティが明確に設定できており、本公募の趣旨に合致するものであるか ・目標とする国際的なトップ研究コミュニティの構築・参画・発展を目的として、適切で具体的かつ実現可能な計画が立てられているか ・国際ネットワーク構築・拡大のために十分な予算が確保されており、適切な予算計画が立てられているか
5. 国際頭脳循環などの促進に資する若手研究者などの人材育成計画の具体性・妥当性	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの国際頭脳循環などを通じた若手研究者などの育成実績を踏まえて、適切な育成目標が設定されているか ・十分な数の若手研究者などが参画する計画となっているか ・効果的な若手研究者などの育成計画が立てられ、次世代のトップ研究者を育成するために適切な計画となっているか ・特に、若手研究者の渡航計画および相手国側研究機関からの受け入れ計画においては、渡航先での役割や滞在期間が具体的かつ明確であり、研究環境や研究機関の受け入れ体制は整っているか ・個々の計画は、例えば派遣先の受け入れ体制などの準備、調整・協議が具体的に進んでいるなど、実現性の高い計画になっているか ・若手研究者などの人材育成に十分な予算が確保されており、適切な予算計画が立てられているか